

令和3（2021）年度 第2回柏崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略 推進委員会 議事概要

- 1 日 時 令和3（2021）年12月24日（金） 午後2時00分から午後4時10分まで
- 2 場 所 柏崎市役所 多目的室
- 3 出席者
 - (1) 委 員 樋口秀会長、三宮真美副会長、相田浩委員、大石友子委員、岡田和久委員、近藤千鶴委員、霜田真紀子委員、竹井みどり委員、三嶋崇史委員、山田秀貴委員
 - (2) 庁 内 総合企画部長、市民生活部長、福祉保健部長、子ども未来部長、産業振興部長、都市整備部長、教育部長
 - (3) 事務局 企画政策課長、同課長代理、企画係長、企画係員
- 4 会議概要
 - (1) 開会 総合企画部長から開会宣言
 - (2) 会長挨拶
 - (3) 柏崎市第2期総合戦略改訂（案）について
資料に基づき事務局から説明
委員により以下のとおり審議が行われた。

発 言 者	発 言 概 要
-------	---------

【計画期間の延長について】

特になし

【重点プロジェクトについて】

- | | |
|---------|--|
| 委 員 | 合計特殊出生率の現状値が1.54であるのに対し、目標値が1.51と下がっているのはなぜか。今後、子育て支援の取組を行っていく中で、目標値を下げることに疑問を感じる。 |
| 企画政策課長 | 将来の展望では、人口置換水準（人口が増加も減少もしない均衡した状態となる合計特殊出生率の水準）の2.07という非常に高い数字を目指している中で、年度ごとに率が上がっていくことを想定しているが、目標値の設定に当たっては、実績を勘案したところである。 |
| 委 員 | 令和元（2019）年の合計特殊出生率は全国だと1.36、沖縄は1.82、新潟は1.38であり、柏崎の1.54は高い。希望ではあるが、この数字は維持していきたいと思う。 |
| 委 員 | 出生率は年々下がっており、目標値の1.51もかなり高い数値であると思う。沖縄は以前から多産で有名であり、1.8というのは全国平均よりはるかに上回っているが、全国的にはかなり低い値になっている。昨年の出生数は、実数で87万人程度、一昨年は97万人程度であり、厚生労働省の予測よりどんどん減っている状況であるため、それに対しこの1.51という目標値も高い目標であると思う。現状値の1.54をある意味「意気込み」として目標値に設定するのはいいが、かなり厳しいと思う。 |
| 子ども未来部長 | 補足だが、柏崎市の出生数は非常に減っており、令和元（2019）年は456人だったが、令和2（2020）年は402人まで落ち込んでいる。合計特殊出生率を1.51まで回復させるため、出生数430人を目指しているところである。 |
| 委 員 | 一人当たりの市民所得は、対象年齢等どのような計算をされているのか。 |

企画政策課 対象は全年齢である。
課長代理
委員 ここを見て就業者の賃金が高い低いは分からないということか。
企画政策課 そのとおりである。
課長代理
委員 この数値は県内では高い方なのか低い方なのか。
企画政策課 新潟県内20市の中では7番目。町村を含めると10番目になる。一方で、雇用者
課長代理 報酬では新潟市に次いで県内2番目である。

【第1節 地域産業の振興を図り雇用の場をつくる について】

委員 園芸作物の作付面積について、終期まで5年あるわけだが、農業をリタイアされていく世代も多いのではないかと思う。農業生産人口が減ると思うが、27.9haから66.4haという目標を達成できる可能性はあるのか。

産業振興部長 御指摘のとおり、非常に厳しい目標であり、実際リタイアされる方も多い。しかし、全体的な取組として、農地の集約化に力を入れている。リタイアされる方には、農業を続けている方へ引き継いでいただくことや、農業法人の方の取組で集約をしていくというのも最近の農業の特徴である。

また、柏崎市は園芸作物が弱い。さらに、水稲は国からの生産調整があり、制限が多く、主食用米を切り替えていかなければならない。その中で、加工米や飼料米へと切り替えながら、園芸作物へも転作を進めていただくということで、この目標値を目指していきたいという思いである。

委員 農地を引き継ぐというのは良い視点だと思う。後述のU・Iターン施策部分にも新規就農者支援事業が載っており、この視点というのは地域産業の活性化の点でも重要な数値なのではないかと思うため、農地の承継にも着目していただきたいと思う。

産業振興部長 今後若い方から就農いただくことも重要になっていくと考えているため、御意見のとおり取り組んでいきたい。

委員 園芸作物の品種等、ターゲットはあるか。

産業振興部長 玉ねぎ、枝豆に力を入れている。特に枝豆は、八石茶豆というブランド名を立ち上げ、どんどん増やしていきたいと考えている。

委員 香川県はレモンの産地になっており、その背景には農地に少しでもレモンを植えるよう全農家に依頼したことで、他の作物が売れなかったときの農家の収入を助けたという話がある。柏崎市でも、多くの農家が少しずつ作って広げていくというのも手なのではないかと思う。

委員 情報関連産業の雇用者数の現在の人数は把握されているか。また、情報産業とは幅広いが、特にどの分野で活性化したいと考えているか。

企画政策課長 平成30（2018）年度の数値は、206人である。

産業振興部長 この数値は国の統計の「情報通信業」に分類されるものを引用している。その中でどういう仕事をされているかについては、把握できない。

委員 内訳が分からないものを増やしていくというのは難しいと思う。どこを増やすのかということを是非、御検討いただきたい。

産業振興部長 ターゲットの企業というのは把握しており、情報産業で70億円を目指すこととしている。PCソフト等に係る企業をターゲットにし、産業界に対する新たなソリューションを担っていただくことで、人も売上げも伸ばしていくことに取り組んでいる。

- 委員 柏崎の産品をまとめたブランドはあるか。
また、延べ宿泊者数の目標が高いのではないか。日割り計算すると1日当たり700人以上宿泊することになるが、それだけの宿泊先はあるのか。
- 産業振興部長 市のトータル的な産品や特産品を総括するようなブランドはない。今後PRしていくためのブランド名等は検討していきたい。
延べ宿泊者数は、平成30（2018）年度とほぼ同じ数値に設定している。現在、観光入込客数も宿泊者数も減少傾向にある中で、何とか当時の水準まで回復させたいというところである。
宿泊先については、民宿等も含めればキャパシティはある。宿泊者数であるため、観光客だけでなくビジネスでの利用もカウントに入る。そういった点でも、駅前だけでなく、様々な場所に宿泊していただけるような取組を進めていきたい。
- 委員 宿泊事業者が疲弊しているので、支えていきたいと思っている。
- 委員 現在は地球温暖化が進み、気候変動に耐え得る農業という視点を盛り込んでいただきたい。刈羽村は、高温にも耐え得る農業について、大学と連携して研究所を作ったと聞いている。柏崎市としても、自給率の維持や生産量を安定させるために、気候変動に対応するような内容も事業として検討してほしい。
- 委員 製造品出荷額等について、新型コロナウイルス感染症の影響を加味しての目標数値としているが、現在も原材料がないため生産できない、コンテナ不足で物が届かない等で苦しんでいる企業も多い。そういった部分を加味して2,200億円としているのか。
- 産業振興部長 平成28（2016）年から平成30（2018）年は増加傾向にある。今後いつ下がるかというところではあるが、その推移から2,200億円という目標を何とか目指していきたい。
- 委員 既存企業が頑張るのはもちろんであるが、新たな産業の創出という項目で企業誘致を掲げている。フロンティアパークは全ての区画が埋まったと思うが、他に企業誘致先はあるのか。
- 産業振興部長 今のところ工業団地のようなまとまった土地はない。当面は遊休地で対応したい。また、今後、まとまった団地が必要かどうかも見極めながら検討を進めているというのが現状である。
- 委員 園芸作物について、柏崎に様々な名産品があると思うが、どこで購入できるのかが分からない。物産館等まとめて置いてある場所があると良いのではないか。
- 産業振興部長 物産館のような場所がないことについては、以前から指摘がある。柏崎らしさを出すという面では、地元の野菜等はブランド名を付ける等の取組を進めていければと思っている。

【第2節 子どもを産み育てやすいまちをつくる について】

- 委員 厚生労働省の調査によると、子育ての不安要因（子どもを持つ、更に持つと考えたとき、自分の子どもが子どもを持つ、更に持つと考えたとき）は、経済的負担の増加が70%、仕事と生活・育児の両立が47%、不安定な雇用と就業環境が43.7%となっている。雇用の場の確保は子育てに影響があるため、産業の創出は是非、御尽力いただきたい。
- また、仕事と生活・育児の両立という面で、ジェンダーの公平性をもっとPRしてほしい。育児だけでなく、結婚による介護の負担も出てくるため、女性は結婚に尻込みしてしまう。男女共同参画としての意見であるが、ジェンダーに対する啓蒙活動も積極的に行っていただきたいと思う。

- 子ども未来部長 雇用は非常に重要な要素である。ワーク・ライフ・バランスの観点から、自分の生活を達成するため、社会がそのような生き方を認めることと、子育ての環境を一緒に考えていかなければならない。一例ではあるが、柏崎市内の企業において、男女とも育休を取れる働き方や社会を求めていった上で、ここで働きたい、子育てをしていきたいという市を目指すことが必要になってくると考えている。
- かつての「ワンオペの育児」からすると、若い方はかなり男性の育児参加という認識が進んでいるように思う。しかし、それを企業が認めて、男性の育休をどんどん奨励していくということにはまだ至っていないと感じる。そのような市に変革していくことを目指していきたいと考えている。
- 総合企画部長 ここ数年は新型コロナウイルス感染症の影響により、訪問によるハッピー・パートナー企業登録への働きかけができていなかった。今後は、職員が企業訪問をし、周知を図っていききたい。また、パンフレットは大企業を中心に配布していたため、中小企業にも配布していきたいと思う。
- 委員 今の若者は仕事や家事の分担をしているが、親世代や祖父母世代からその生活に対して理解が得られていない。そのため、企業だけでなくコミセン等にもパンフレットを配布していただき、全体的にそういった意識を高めていただきたい。
- 委員 ジェンダー平等について、男女とも仕事をするということは非常に良いことである。一方で、妊娠・出産は女性にしかできず、ある一定期間休まなければならぬ。最近の若者は、共同参画をし、そういう風潮であるように思うが、完全に平等というのは難しいと思う。仕事によっては、夜中に帰ってきて早朝に出勤などもあり得る。そのように働く女性もいるが、子どもからすると母性は大切であるため、母性を大事にしつつ父親が手伝うという形になるのではないかと思う。
- 「柏崎に住めば、定職につき最低限の生活ができる」という環境づくりが必要である。その上で、保育園に入園できる環境などを整え、育児がしやすい環境であるということを実感付けていければ良いのではないかと思う。
- 委員 ハッピー・パートナー企業の登録件数の目標値が、70社から80社へ変わった。令和2(2020)年度は1年間で2社しか登録がないようであるが、10社増とした理由は何か。
- 総合企画部長 令和2(2020)年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により企業訪問が行えず、登録件数が2件となってしまったが、今後は積極的な企業訪問により、丁寧に制度の説明やアドバイスを行うことで、80社を目指していきたいと考えている。
- 委員 市内の保育園は公立が多いのか。
- 子ども未来部長 公立15園、私立12園、認定こども園5園、小規模保育事業所1か所である。保育園の数としては、公立保育園が多いが、入園児数は、私立の方が多し。
- 委員 保育園に子どもを預ける親にとっては、シーツを洗って月曜日に持っていき、紙おむつを使っている場合は1つ1つ名前を書いて持っていき、ということが非常に負担になっている。最近、サブスクリプションによる手ぶら保育が話題になっている。柏崎市内ではそういった動きはあるか。
- 子ども未来部長 現状そのような制度を使っている所はない。
- 委員 他市で推進しているところもあるため、柏崎市も親の負担が少なくなるよう取り組んでいただきたいと思う。
- 委員 ハッピー・パートナー企業へ登録している企業を市のホームページに掲載しており、とても良いことと思う。様々な企業が登録しているという情報を一覧表にしてもっとPRしていけると良いのではないかと思う。
- 委員 妊娠・出産・育児以前に出会いの場がない。毎年20名程度の新採用者がいるが、3年程度働いて仕事を覚えてくると、地元に戻ってしまう。その人たちに何とか柏崎に残っても

らうためにも、いい出会いの場ができないかと考えている。

委員 新入社員が課に1人、事業所に1人だと会社に同期がいないという状況になる。例えば、新入社員を一堂に集めて、新入社員の教育も踏まえた交流の場があればよいのではないか。

子ども未来部長 婚活を意識しない、前段での若者の交流がされると良いのではないかと思う。今年度まではイベント中心の婚活事業を行っていたが、先が見込めないことなどから、来年度以降はやり方を変える等、委託先と協議をしているところである。婚活に限ってではなく、企業などをベースに、一緒にグループ活動や地域の活動を通して、交際に発展し結婚に結びつくような形に持っていくという提案を受けている。

【第3節 定住を促す魅力あるまちをつくる について】

委員 ブルボンウォーターポロクラブに関する指標がなくなっているが、柏崎市は水球が盛んなまちという基盤があるからクラブチームができ、市にも水球のまち推進室がある。総合計画にもサポーター数は指標にあるほか、柏崎らしさの部分では、国際交流という観点でも水球は機能しているため、一企業のチームであるという理由で指標から外すのはいかがか。是非残していただきたいと思う。

KPIがふるさと納税になっているのが疑問である。項目は「定住を促す魅力あるまちをつくる」の中の「柏崎らしさを創出する」である。それを図る指標がふるさと納税というのは関連が弱いのではないか。

企画政策課長 指標にないからといって、事業を行わないということではなく、指標としてどうかという観点から、全庁的に検討をしたところである。御意見のとおり、総合計画では指標の一つとしている。

柏崎らしさを創出を図る指標については、非常に悩んだ部分であり、結果として1つになったが、柏崎ファンクラブの会員数やブルボンウォーターポロクラブのサポーター数についても、決してこれ以上増えなくて良いということではない。柏崎らしさを図る指標という点で整理したというところで御理解いただきたい。

企画政策課長代理 ふるさと納税だけを見れば、お得な制度という印象が前面に出てしまうが、柏崎市のふるさと納税は、柏崎の事業者がコラボして、柏崎のものを売り出している、柏崎を応援していることに視点を置いており、ただ寄附を集めるという形では行っていない。そういう意味で、柏崎らしく、人々が関わって件数が増えるというのが、柏崎を知っていただいているという一つの指標になるのではないかとすることで設定している。

委員 指標として削除するのであれば、削除理由は見直した方が良いと思う。また、指標が1つというのは弱いと思うため、別のKPIも検討していただき、多角的な視点を加えた方が良いのではないかと思う。

委員 ふるさと納税は返礼品を目的としており、市外の人が多いと思うが、人任せな印象がある。柏崎市民が柏崎らしさを創出していくことを目標に取り入れていくことが大切なのではないか。

また、会員数やサポーター数については、KPIに残しても良いのではないかと思う。

委員 柏崎ファンクラブのメリットは何か。メリットをPRしていただきたい。

ブルボンウォーターポロクラブに関しては、スポーツ全体からすると、非常に視野が狭い。水球だけに頼るのではなく、それを中心とした広い目標、例えばス

ポーツで健康を維持するということを掲げ、企業単体ではない広い視野で目標が立てられれば良いのではないかと思う。水球というのは全国的な認知度は低いから、そこをうまくPRできる題材に変えた方が良いのではないか。

- 委員 柏崎ファンクラブ加入のメリットは何か。
- 企画政策課 柏崎ファンクラブのメリットというのは、現在見えにくい状態になっている。会員同士の交流会等を積極的に行うという計画を立てていたところで、新型コロナウイルス感染症が流行してしまった。
- 課長代理 分かりやすいメリットとしては、会員証を提示すると飲食店で特典を受けられるというものがある。また、はなまるクーポンとコラボするなど、他の事業と連携をし始めたところである。
- 委員 一方で、ファンクラブ会員の方から「柏崎を応援したい」という声も聞いている。そういった方々の応援を形にしていけることも検討しているところであり、事業化できたらと考えている。
- 委員 県外にもファンクラブの会員が多いのであれば、ふるさと納税のファンクラブ限定等の案内をするなどの使い道もあるのではないか。新入生や新入社員がファンクラブに加入し、講演会等に無料招待した後、懇親会を開くなどファンクラブには発展性があるのではないかと思う。
- 企画政策課 ファンクラブの会員数が増えた背景には、ふるさと納税がある。ふるさと納税の際にファンクラブの御案内をし、入会していただいた方はリピート率が高い。
- 課長代理 地域コミュニティの維持活性化という点で、以前ウォーキングマップを各コミセンで作成したが、その後あまり更新されていない。柏崎市には素敵なコースがたくさんあるため、例えば、ウォーキングマップを整理し、駐車場を拠点としたコース100本を目指す等の指標も良いのではないか。
- 委員 現行では会員数の累計が指標になっているが、会員数ではなく、今出された様々な意見から、新規事業のような形で市が進めていっていただけたら良いのではないかと思う。
- 委員 KPIについて、もう一度検討していただければと思う。
- 委員 市内高校、大学の就職率について、実数を把握した方が良いと思うので、数を併記していただきたい。
- 企画政策課長 KPIはあくまで率を示した上で、進行管理の中で数を示せたらと思っている。

【第4節 地域の活力を担う人材をつくる について】

- 委員 ライクワークスクールの注釈について、市民全体が自分の地域の課題を解決しようと集まるのは非常にいい機会だと思う。自分のできることを地域の問題解決にいかそうという問題解決の場として、ラボ等があると良いと思う。
- さらに、チームでアクションプランを起こしてビジネスに結び付けていけたらもっと良いのではないかと思うため、力を入れて実現していただきたい。
- 委員 「愛着や誇りを育む人材をつくる」に関する指標に、柏崎の自然や伝統文化を体験したことがあるかということと、WEBミュージアムのアクセス件数が挙がっている。体験と実践の学びの観点盛り込まれ、非常に良くなったと思う。
- 委員 二大学の新入生をファンクラブに加入させてはどうか。大学の4年間で柏崎のイベント等に参加させて愛着を持たせていくのはいかがか。
- 企画政策課 柏崎市では、市民の有志が主体となり、市民プラザや産業文化会館で新入生歓迎会を開催している。鯛茶漬を食べさせていただいたり、柏崎の魅力を紹介したりしている。また、ファンクラブのPRや入会についてもその場で行ってきたところ

委員 である。
大学3年生になると、自分のやりたいことが決まってくる頃であり、冬には就職活動も始まってくる。そのため、大学3年生の夏、秋頃までに柏崎の魅力を紹介していただけると効果があるのではないかと思う。

(4) その他

(5) 副会長挨拶

(6) 閉会 総合企画部長から閉会挨拶